

協働ってなあに？活動を聞きに行く

【その3 柏・麦わらぼうしの会 市民団体×市民団体×学校×行政】

25年の長きに渡り、平和の尊さ・命の大切さを多くの人たちに語り継ぐ活動を続けている「柏・麦わらぼうしの会」にお話を伺いました。(取材日：令和2年12月11日)

【活動の始まり】

発足のきっかけは1993年に遡ります。原爆をテーマにした朗読劇「この子たちの夏」の台本貸出の新聞広告を見た見城さんが、所属している「柏子ども劇場（現NPOこどもすぺーす柏）」の仲間呼びかけ、1995年に初めての公演を行いました。2002年に「柏子ども劇場」から独立し、「柏・麦わらぼうしの会」（初代代表児玉典子さん）を設立しました。公演の際に麦わら帽子を被って朗読したことが会の名前の由来だそうです。その後、台本の提供者より、原作者の真の意図が伝わらないことがあると、全国各地で活動していた団体に向け台本の使用が禁止に。そこで、手記の著作権を保有する人、一人ひとりに許可を得て、正木さん（現代表）ほか演出担当班がオリジナル台本を作成し上演をするという形に変更し、現在に至っているそうです。子を思う母親の気持ちを伝えることも朗読の際に大事にしていることのひとつのこと。

【協働の始まり】

2004年、柏市平和展で、柏市原爆被爆者の会「柏和会」を知り、柏市役所の仲介を経て交流が始まります。初めて会ったときこそ、体験者と非体験者の溝があったそうですが、活動を見ていただき、やがて強い信頼関係が生まれました。2017年には、10年間に渡る聞き取りの集大成として「つなぐ（私たちが聴いた原爆被爆者の証言）」を発刊しました。2009年からは学校公演を開始し、毎年約10校を訪問。

【協働のポイント】

柏市平和事業への協力という形での柏市との協働、また「柏和会」との交流を続ける中で、公演先などが増え（継続的に学校や市外から公演要請がある）、活動は良い方向に広がり、深まっています。「会員が皆平等であり、主役はいないこと」を強みとして、会員が遠慮なく意見を出し合い、時に喧嘩腰になりながらも、しっかりと筋の通った主旨に沿って継続される活動。自分たちのやりたい事、大切にしたい事が明確なことが、協働を長く続けられる秘訣でしょう。

【最後に】

学校公演を観た児童の「大切に思っている人を、これからも大切にしていきたい」などの感想が嬉しいと、メンバーは語ります。「私たちも戦争を知らないけど、戦争を無くし、命を大切にすることを伝えていきたい。皆さんが感じたことを、これからどう行動に移していく

かが大切」という言葉が印象的でした。

【追記】2021年9月

2021年8月、柏市民文化会館にて行われた一般を対象とした自主公演「この子たちを忘れない2021」を見に行き、原爆の悲惨さ・平和の尊さを改めて考えることができました。今年度も柏市からの派遣で8校の学校公演を予定しているそうです。現代表は井野口典子さん。



柏・麦わらぼうしの会のみなさん

私たち、協働の推進・情報発信チームは、多くの人に分かりやすく協働のまちづくりを伝え、興味を持ってもらえるよう、様々なことを発信しています。(レポート 中島 幸, 深津英雄)